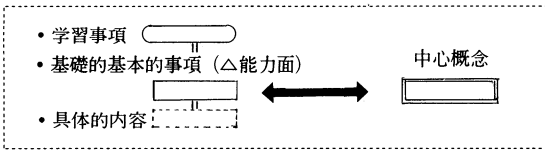


資料3-2 第2学年社会科学学習指導案（展開案等は省略）

教材構造図・授業の分析

授業の組織化

「学習する喜び、創り出す喜び、追求する喜び」
「楽しく、わかる授業」

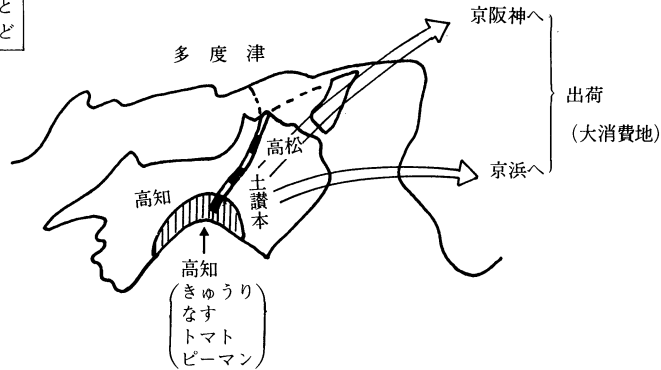


- ◇観察作業、表現活動の重視
- ◇発問による知的好奇心の喚起
- ◇事象や資料の比較、関連の理解

組	2	3	4	5	
実施日	8/29	8/29	8/29	8/29	/

◎二大消費地への供給（京浜・京阪神）
茨城、千葉、群馬、兵庫、和歌山と
遠くの宮崎、高知、愛知、長野など

◆きゅうり、ピーマンも
高知産が出荷されるのは、
最盛期の夏以外であることに
注目させ、促成栽培のねらいを
考えさせたい。



野菜の促成栽培

- ビニールハウス
- ビニールトンネル
- 有利な点
 - ・温暖な気候
 - ・交通の便—鉄道の開通（1935年）
（カーフェリー・トラック）
 - ・努力と伝統

他の産地との競争

- 不利な点
 - ・大消費地に遠い
 - ・輸送費が高い
 - ・鮮度が落ちる

〔用語・コラム〕

- ・高知産の野菜（ピーマン、なす、きゅうり、すいか）1970年代～他産地との競争が激化

↓
温暖な気候の有利性……後退

◎暖かい気候…広島との比較

12月～3月平均気温	7.8℃
1月	- 5.2℃ + 1.1℃
2月	- 6.4℃ + 1.8℃
3月	- 9.8℃ + 2.4℃

1980年理科年表より

導する以上、指導者にもそれなりの指導案が必要と思われる。そこで、次のような形式を考え、年間を通して継続し実践してきた。（資料3の2）

中国・四国地方の一例——
（検証授業案を兼ねる）

◎ 本時指導の意図

① 高知平野に促成栽培が盛んになった理由を宮崎平野の場合と比較しながら考えさせる。

② 野菜の促成栽培が盛んになった理由を温暖な気候条件の他にないかどうかを調べさせる。

③ 高知の促成栽培がビニールハウスの普及により競争が激しくなり、収益が減ってきたことへの農家の不安を文書資料から読みとらせる。

④ 促成栽培の野菜の出荷先と主な産地を略地図ノットに書き込ませ、具体的に理解させる。

(2)、検証と考察

①、検証の観点

仮説を実証するにあたり検証授業を実施したり、次の観点から生徒の変容をみつめ、事後テストの正答率、把握率を分析し、また生徒のノートやトレーニングペーパーによる作業学習のまとめ方などから考察を加え、仮説の有効性をみることにする。

ア、事前・事後テストは同一問題とし、一定期間後の定着をみる把持テスト問題は、テスト用に用いられた読図、作図を発展的に扱う。

イ、事前・事後テストに用いる読図、